

編集後記

今年の箱根駅伝は、青山学院大学の初優勝で幕を閉じた。優勝争い大本命と思われた東洋大学や駒沢大学に10分以上の差をつけた完全優勝だった。原監督を迎えて11年目、廃部の危機を乗り越えての快挙となり、「ワクワク大作戦」をスローガンに掲げ見る人を本当に楽しませてくれた。

今年の東北部会学術大会も、日本海に沈むきれいな夕日を楽しむことが出来る朱鷺メッセ(新潟市)で開催された。「今なすべきこと、次世代への架け橋」をメインテーマに一般演題125題、参加人数が約500名の素晴らしい大会となった。「救急医療の現状と将来」をテーマとしたシンポジウムでは、人的資源不足の実態はあるが、診療放射線技師の活躍の場が大きく広がる可能性が示唆された。主催団体からの企画では、福島原子力発電所事故後の住民の個人被ばく線量把握事業の報告と研究者としての心構えについての講演が行われ、それぞれの特色を出した内容となった。テクニカルミーティングは、今回から医療情報分野を加え6分野で行われた。日常業務を再認識するための基礎的内容での検討が行われ、充実した内容となっている。ランチョンセミナーは、4題で最新の情報提供が行われた。市民公開講座の「脱毛症治療・最前線」では、薬剤による治療の可能性が示唆され勇気づけられる内容となった。また「映画音楽という世界」では、音楽によってシーンの見え方、感情が違って見えることを体験し、撮影室・治療室でのBGMの重要性が再認識された。

原監督の3点セット「創りたい組織に見合う人材を集め」「自立を基にした、規律からなる育成」「具体的な数字を挙げて、やりきる宣言」には、組織やその中で個人が活躍するためのノウハウが凝縮されている。ぜひ参考にしていきたい。

事務局	公益社団法人 日本放射線技術学会東北部会 〒990-9585 山形市飯田西二丁目2番2号 山形大学医学部附属病院 放射線部内
電話	023-635-5118
FAX	023-628-5799
発行人	江口 陽一
発行日	平成 27 年 1 月 31 日

